

市民参加に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



VALUE ルーブリックは、全米の大学を代表する専門教職員が、学習の成果に関する各大学のルーブリックや関連文書を調査し、教職員からのフィードバックを参考にして作成されたものである。このルーブリックは、段階的達成レベルを示す能力指標により、各学習成果の原則的な基準を示すものである。このルーブリックは、各大学が学生の学習を評価し考察する目的で使用するものであり、成績をつけるために使用するものではない。この15のVALUEルーブリックに示された学生に期待される能力に関しては、各大学、専門分野、コースに応じて、それぞれの解釈が可能である。VALUEルーブリックは、学生の成果に関し共通の手段と理解を共有することで、すべての学部レベルの機関での学生の学習を、一つの基本的な期待レベルの枠組みの中で位置づけるためのものである。

定義

市民参加とは、「地域社会の市民生活をより良いものにするための活動を行い、そのような変化をもたらすことを可能にする知識、スキル、価値観、及びモチベーションを一体的に養うことである。政治的プロセスと非政治的プロセスの両方を通して地域社会の生活の質を高めることである」(出典 Excerpted from Civic Responsibility and Higher Education, edited by Thomas Ehrlich, published by Oryx Press, 2000, Preface, page vi.)。また、個人の人生を豊かにすると共に、地域社会の利益にもつながる、個人的または社会的な利害に関する活動への個々の参加という行動も、市民参加の定義に含まれる。

概要

卒業生に、市民として、地域社会の一員として、また、仕事に従事する社会人として社会に出ていくための基礎力をつけることは、古くから高等教育機関の役割とされてきた。だが、公民としての意識を持った卒業生とはどのような成果かということは、複雑な概念である。市民参加学習による成果は、個人の特性や関与、学問的な枠組み、伝統、職業人になる前の規範や実践、更には大学の使命や価値観によって構成される。このルーブリックは市民としての自覚学習の成果をより明確にするために作成されたものである。市民参加には、個人的なボランティア活動から、組織的な関わり、選挙の投票まで、様々な形がある。学生による市民参加の活動としては、授業を通じたサービス活動の学びや、地域密着型調査、地域でのサービス提供活動等を通じた地域に根差した学習も含まれるかもしれない。これらの評価には、下記に示す数種類の課題や一連の課題を用いることができる。

【例】

- 学生は、自分が関心をもっている問題について学び、行動を起こすための、他者（地域の若者や住民等）の参加も含む、市民サービスプログラムを作成・運営する。その過程において、学生は討議民主主義への他者の参加を促すプロセスや、その他、意見を述べたり、民主的なプロセスに参加したり、特定の問題に影響を及ぼす具体的な行動等、様々なプロセスを教えたり、そのモデルを提示する。
- 学生は特定の問題に関して調査し、その問題に関する討議民主主義フォーラムを準備し、運営する。このフォーラムは、その問題に関する複数の視点を含み、様々な市民行動により、いかに最も良い変化をもたらすことができるかを問うものでなければならない。そしてその結果、他の学生や、教員、地域住民が様々な問題に関し、行動を起こすよう促されるものでなければならない。

市民参加に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



- 学生は特定の問題に関し、あるいは、公共政策の修正、変更に関し、市民のその問題や政策に関する知識、または問題意識に具体的な変化をもたらす複合キャンペーンに携わり、リーダー的役割を果たす。学生はこの過程を通して、様々な種類の市民参加行動と能力を提示する。
- 学生は学業と地域参加を融合させることにより、地域の構成員として参加し、そのプロセスを通して地域のニーズや資産に対応した、具体的な成果物（法律または政策の一部、事業、建物または市民生活の基盤施設、水質・科学的評価、ニーズ調査、調査報告、市民サービスプログラム、団体）を生み出す。

また、これらの課題評価プロセスは、本質的に、課題に部分的に関わった地域の選挙権を持つ住民、すなわち外部評価者を含むことになる。このような評価者は、チームメート、同僚、地域住民・機関職員、プロセスに関与している者、及び連携という形でプロセスに協力している者を含む。

用語

下記は、このルーブリックにのみ適用される用語と概念の定義である。

市民としての自覚	自身を積極的な社会参加者と捉えており、市民生活を改善する取り組みに、責任を持って真摯に関わっている。
サービス活動を通じた学び	組織的なサービス活動を行った後に活動を反省し、それによって授業内容をより深く理解し、より広い範囲でその専門に触れ、個人的な価値観や市民としての責任感が高められるような、授業を通じた体験型の学び。
コミュニケーション能力	相手の話を聞く、熟考、交渉、総意を得る、意見の違い等を有効的に活用する
市民生活	個人の関心や利益を追求する個人としての生活に対し、地域や国の出来事・問題に関心を持つ市民の、全体としての市民生活。
政治	意見や利害が異なる可能性を持つ特定の集団が、全体としての決断を下すまでのプロセス。その決断は一般的にその集団に対して拘束力があると捉えられ、共通の政策として実施される。政治生活は、個人では実現できない目的を達成することを可能にする。複数の集団が共に生活をする際、常に何らかの全体としての決断を下さなければならないため、政治は必ず必要となってくる。
政府	資源分配、利益と負担の分配、及び争いの処理に関する拘束力のある決断を下し、実施する権限を持つ、社会の公式機関。（引用先 Center for Civic Engagement ウェブサイト 2009年5月5日）
市民活動・共同体環境	局所性により定義される（学校、国立公園、非営利団体、市、県、国）、または共通のアイデンティティーによって定義される（つまりアフリカ系アメリカ人、ノース・キャロライナ住民、アメリカ人、共和党、民主党、難民等）、人間、その他の生物、または両方が住む場所、キャンペーン、市民運動、団体。その他、市民参加の対象となる環境の定義は、一個人、集団、または地域社会の利益のための、地域サービスやボランティア活動、学業も含めた様々な取り組みを含む。

市民参加に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



定義

市民参加とは、「地域社会の市民生活をより良いものにするための活動を行い、そのような変化をもたらすことを可能にする知識、スキル、価値観、およびモチベーションを一体的に養うことである。政治的プロセスと非政治的プロセスの両方を通して地域社会の生活の質を高めることである。」

(Thomas Ehrlich 編 (2000) *Civic Responsibility and Higher Education* Oryx Press 序文 p. vi) また、個人の人生を豊かにすると共に地域社会の利益にもつながる、個人的または社会的な利害に関する活動への個々の参加という行動も、市民参加の定義に含まれる。

単独の課題、または複数の課題を統合して、ベンチマーク（基準 1）に達しない場合は、0点と採点することを推奨する。

	最終基準	中間基準		ベンチマーク
	4	3	2	1
地域・文化の多様性	多様な地域や文化の中で活動し学ぶことで、姿勢や考え方を調整したと認められる。他者の多様性に関する関わりを促している。	自己の姿勢や考え方が、異なる文化や共同体のそれとは違うことについて考えることができる。多様な共同体や文化から何を学ぶことができるのかという点について興味を示している。	自己の姿勢や考え方が、異なる文化や共同体のそれとは違うことを認識している。多様な共同体や文化から何を学ぶことができるのかという点について興味をほとんど示さない。	個人としての姿勢や考え方を、一方的な視点に基づいて述べる。多様な共同体や文化から何を学ぶことができるのかという点について、全く興味を示さないか、あるいは学ぶことを拒否している。
知識の分析	市民参加活動及び市民生活、政治、政府に対する自身の参加に、自身の専門分野・学問・科目の学習から得られた知識（事実、理論等）を関連させ、広げている。	市民参加活動及び市民生活、政治、政府に対する自身の参加に、自身の専門分野・学問・科目の学習から得られた知識（事実、理論等）を関連させ、分析することができる。	市民参加活動及び市民生活、政治、政府に対する自身の参加に、自身の専門分野・学問・科目の学習から得られた知識（事実、理論等）を関連させ始めている。	市民参加活動及び市民生活、政治、政府に対する自身の参加に、自身の専門分野・学問・科目の学習から得られた知識（事実、理論等）を特定し始めている。
市民としての自覚と関わり	市民参加活動の経験の証拠を提供し、強化、明確化された市民としての自覚と公的活動に継続して関与することに関して、自身が学んだことを述べることができる。	市民参加活動の経験のエビデンスを提供し、強化、明確化された市民としての自覚と関与に関して自身が学んだことを述べることができる。	市民参加活動に対する関与が、市民としての自覚に基づくものではなく、期待に応えるためであったり、履修条件を満たすためであるという証拠がある。	市民参加活動の経験の証拠を少し提供するが、経験したことと市民の自覚を関連づけられない。
市民としてのコミュニケーション能力	相手によりコミュニケーション方法を巧みに変えることで、効果的に表現し、話を聞き、相手に合わせることにより、より良い市民生活のための行動をさらに広げるような関係を相手と築く。	市民参加活動の関係性において、効果的にコミュニケーションでき、下記に示す内容を全て実践する能力を持つ。 【相手の視点に合わせて表現し、話を聞き、意見やメッセージの伝え方を工夫することができる。】	市民参加活動の関係性において、効果的にコミュニケーションでき、下記に示す内容を実践する能力を二つ以上持つ。 【相手の視点に合わせて表現し、話を聞き、意見やメッセージの伝え方を工夫することができる。】	市民参加活動の関係性において、効果的にコミュニケーションでき、下記に示す内容を実践する能力を一つ持つ。 【相手の視点に合わせて表現し、話を聞き、意見やメッセージの伝え方を工夫することができる。】

市民参加に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



<p>市民としての行動と反省</p>	<p>複雑な、または複数の市民参加活動に関し自主的な経験をしており、<i>自発的にチームでのリーダーシップを発揮している</i>。また、自身の行動に関する目的や成果に関する分析や反省に基づく知見を得ている。</p>	<p>市民参加活動に関し自主的な経験をしており、<i>自発的にチームでのリーダーシップを発揮している</i>。また、自身の行動に関する目的や成果に関する分析や反省に基づく知見を得ている。</p>	<p>市民参加を主とする活動に明らかに参加しており、その活動が個々の市民、または複数の地域にとってどのような利益をもたらす可能性があるか考え始めている、あるいは述べるようになってきている。</p>	<p>市民参加活動を多少試してみているが、その目的や効果について、自分のものとして理解しているようすはほとんどなく、今後、関与していこうという意欲が見られない。</p>
<p>市民活動環境・構造</p>	<p>より良い市民生活に関する目的を達成するために、様々な共同体の環境・構造内で、また、<i>横断的にそれらの環境・組織内で連携して活動する能力を持ち、その活動に対し真摯に関わっている</i>。</p>	<p>より良い市民生活に関する目的を達成するために、様々な共同体の環境・組織内で積極的に活動する能力を持ち、その活動に対し真摯に関わっている。</p>	<p>共同体の環境・組織に意図的に参加する方法を見出していることが認められる。</p>	<p>共同体の環境・組織に試験的に関わっている。いくつか試してみて、どの環境・構造が自分に合うか探っている。</p>